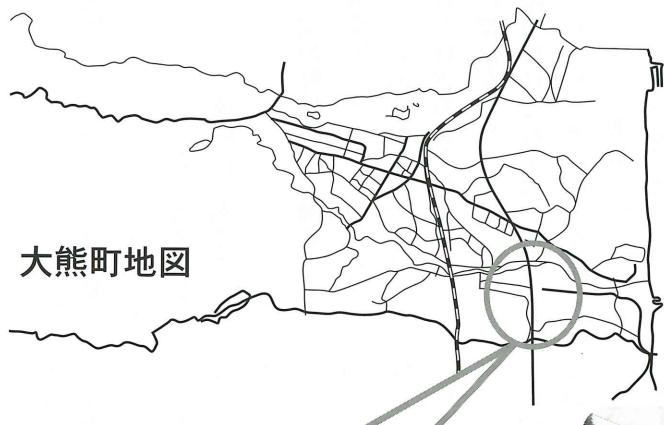


大熊町を 端から端まで ● 知りつくそう！

● 第6回 町区 区長 塚本 英一



区長の塚本さんにお話を伺いました。
いました。

この町区戸数は百戸余り、近年大きな変動はないですね。そのせいか地区の親睦は特に深く團結力はあります。地区的老人クラブ、婦人会、育成会などが中心となってそれぞ

れ活発な活動をしています。三世代交流・老人と婦人のつどい・夏祭り・芋煮会など。特に、何かをやった後の反省会は盛り上がり、狭い集会所に入りきらないほどですが、それはそれは楽しいものです。

それに、大きな行事としては毎年、秋葉神社の祭典「渡御祭」があり、例年は略式で消防団の人が海に行って海水を汲んてきて、集会所で祭事します。

四年に一度は氏子が正装をして御輿の行列が海までさがる「おさがり」をします。海で「しおごおり」をしてお祓いをするものです。準備は各班で行い、盛大にお祭りをします。何百年と続いている伝統のお祭りです。

ここは昔から、宿場町として栄え、道には柳並木と掘り割りがあつて、風情のある町並みで、道沿いには屋号をもつ商家が並んで賑わっていたという話です。今でも屋号で呼ぶ人もいます。それが戦時に焼夷弾を落とされ、ほとんどの家が焼けてしまいました。みんな防空壕に逃げてい

ふるさと 再発見

地区集会所を訪ねて

熊町地区はその昔、相馬藩と岩城藩の境の重要な宿場町でした。また、戊辰戦争で焼き討ちに合い、江戸時代初期以来、浜街道宿場町として柳のらめき掘り割りが流れていた美しい町並みは戦時中、艦載機の襲撃を受け、一瞬にして焦土となつたという悲しい歴史があります。現在は、町を東西に二分し国道六号線が走り、町並みは近代的景観となっています。

公民館報おおくま 6 ●

▲二世代交流

たので命は助かったが、亡くなった家族もいました。

私たちの家も焼かれて、軍の格納庫を壊した材料で、みんなでバラックを建てて住みました。それに、二枚羽根の飛行機（練習機）を夜ノ森まで引っぱって行ったことは忘れない。

今でも、空襲で亡くなった人たちのことを思うと切ないです。慰靈祭ができないかと思っています。また、その歴史も語り継いでいかなければならぬと思っています。

それに国道が出来た時は「弾丸道路」と呼ばれ、こんな広い道、と思いましたが、今はすごい交通量です。

この地区的悩みは集会所が狭いこと、近々新しい集会所が建つ計画はあるのです

が、初発神社周辺

（夏目記）



編集委員より

*区長さんは行政区をとても愛しているということがひしひしと伝わってきました。何を質問しても

すぐに答えが返り、年間の事業も地区の人々の協力と

団結力で楽しく行われている様子が伺われました。

（夏目記）



渡御祭

一帯は埋蔵文化財の指定区域になつていて、建設まではなかなか大変でしょう。弾丸道路建設の時には骨の入った甕が三つ出てきた。今なら工事中止になるくらい大騒ぎになつ

たり、昔から



老人と婦人のつどい ところ狭しと歓談



延命地藏堂



初發神社

たでしょ。お堂の裏に無縫仏として納めてあるが、ここには掘ったら何かは出てくると思う。楽しみもあるが、やはり集会所は早く建てて欲しいです。

また、戊辰戦争・第二次世界大戦があった歴史は他の地域で起きたことのように考えていましたが、そのことは本当に身近に起きたことで、二つの戦いのために犠牲になった方々がいて、残された人々が苦労

地域の人々を守つてくれたことに感謝し、今も信仰され祀られていることの大切さを知りました。そして、遺跡発掘されるであろうといふことには古代のロマンへの夢がわきました。（三瓶記）

◆文中の「しおごおり」とは「潮干り」のこと。海水で禊をする「こと」の意